

松戸市の高齢化と医療需要

平成22年12月

松戸市医師会

千葉県は平均年齢は現在は全国で6番目に若いですが、その理由は25才から50才の人口流入が多かったためである。そのため、昭和50年を起点とすると全国で2番目に人口が急増した。流入人口の多くが東葛地域と千葉市に流入した。人口10万人当たりで病院数が全国で45位、診療所数44位、病床数45位という乏しい医療資源で医療需要に応じてこられたのは、疾患にかかりにくい年齢層が多かったためである。昭和50年から30年が経過して、全国で2番目の速度で高齢化が進行しており、今からわずか5年後の平成27年には4人に1人が65歳以上の高齢者となる。必然的に医療需要も急増する。2005年と比較して2030年ころの入院数は、千葉市が1.3倍、松戸市で1.6倍であり、同じベッドタウンでも松戸市のほうが増加率が高い。千葉県は高齢化の速度、医療需要の急増の点で全国でも突出しているが、中でも東葛地域が全国的にも突出して医療需要が急増することがわかる。新市立病院建設を計画するに当たっては、病院完成時には医療需要が現在よりも非常に増加していること、人口当たりの医療資源が全国の中でも非常に乏しい現状を考慮すべきである。

参考文献

- ・統計からみた千葉県の医療 千葉大学附属病院地域医療連携部 藤田伸輔
- ・循環型地域医療連携パスの実践プログラム開発平成21年度報告書

千葉大学附属病院地域医療連携部 藤田伸輔ら

